



① 西秋書店

昭和51年(1976)に開業した「西秋書店」は日本語、日本文学研究書の専門店として知られる。万葉集から村上春樹まで、幅広い時代の文学評論書を扱い、来店する客層も図書館関係者、院生、講師、研究者などさまざま。また方言を含む日本語に焦点をあてた本を多くそろえるのも、他店にはない当店の特徴の1つ。国文学を読み解くのに、そこに使用されている言葉をよく知ることが欠かせないからだ。最近では児童文学の研究書も増やしており、顧客から確固とした信頼を得ている。

03-3262-2765
千代田区西神田2-3-3



② 山口書店

受験生とその親が『赤本』を求めて訪れる店。中央の書棚を境に、左手は文学書、右手は受験参考書と、全く異なるジャンルの書籍が並ぶ。受験コーナーには、国公立をはじめ、私立、医療系大学など全国に約709校(文部科学省調べ)あるうちの約400大学の赤本が集まっている。そのため、都内はもちろん地方予備校からも多くの問合せがあるという。文学書コーナーで、目につくのが、三島由紀夫の研究者として知られた店主、山口基さんによる三島由紀夫コレクション。三島文学の魅力をも今に伝える店として、日本文学に対する貢献度も計り知れない。

03-3261-5782
千代田区神田神保町2-4-8



③ けやき書店

昭和62年(1987)開業の「けやき書店」は、「文学好きにはたまらない品そろえ」で一目おかれる。芥川・直木賞作家、明治~現代の初版本や限定本、直筆書簡類、初出雑誌を扱う近代文学の専門店だ。特に太宰治、坂口安吾ら無頼派の初版本が充実。現在、活躍中の作家はサインの有無がポイント。同店によると村上春樹、京極夏彦、宮部みゆき、高村薫の署名本は特に人気が高く、さらに別格が金原ひとみ、綿矢りさ。目録は年4回発行。「本の発送先は自宅宛て、目録は一刻も早く見たいから会社に通って、という人もいますよ」(店主)

03-3291-1479
千代田区神田神保町1-9 ハヤオビル6F



④ 一誠堂書店

古書店界の名門「一誠堂書店」は、明治36年(1903)創業の老舗。洋装本、洋書、古典籍(和本、巻物、古地図)など文化系書物全般を扱う。若手社員の意見で書棚に加わったのが映画・演劇の本だ。国内外の大学、図書館、美術館との取引も多い。「うちの柱は一般書、洋書、古典籍の3つ。売れなくても、どれかをやめる考えはないんです。他店がやらなくても、うちがやっていたらお客様は来るでしょう。古本屋は持続が大事です」(店主)。値段の過当競争が業界に及ぼす影響を配慮し、HPへの商品掲載は一部にとどめる。

03-3292-0071
千代田区神田神保町1-7



⑤ 小宮山書店

昭和14年(1939)開業の古書店「小宮山書店」は、ファッション、サブカルチャーから文学、哲学、心理学、歴史、宗教まで6フロアに分けて展示販売。特にヴィンテージ写真集や写真家によるオリジナルプリント、現代アート作品、三島由紀夫関係が充実。取扱ジャンルが幅広く、「フロアごとに面白い棚づくりをしているので、『何時間でも見ていて楽しい』と好評です」(店主)。毎週末に開催するガレージセールは掘り出し物多数。年に1~2回オールカラーのカatalogを発行。古本や絵画、プリントの買取も行。日曜・祝日も営業。

03-3291-0495
千代田区神田神保町1-7



⑥ 玉英堂書店

「玉英堂書店」は希少で優れた貴重な「稀観本(きこうほん)」の専門店。明治35年(1902)に本郷湯島天神下で古本兼貸本業として開業し、大正15年、神田神保町に移転。そして「オリジナルだけが持ちうる筆跡、装丁、紙質により作家が生きた時代に近づきたい」(店主)との思いで昭和55年、2階に稀観本と筆物の「特選ルーム」を開設。室町後期の源氏物語絵巻、良寛の書、司馬遼太郎の肉筆原稿など、文学史・美術史で知る名前がひしめく、密度の濃い光景だ。観覧自由。目録は年3~4回発行。

03-3294-8044
千代田区神田神保町1-1



⑦ 八木書店 古書部

創業は昭和9年(1934)。「八木書店 古書部」は上代から近現代までの日本文学を扱う。歴史的に極めて価値の高い本の影印本、近代文学の初版本や草稿、自筆物の充実が特徴だ。その一例、正倉院で千年以上保管されている文章を精密な写真と印刷、劣化の少ない中性紙で再現する「正倉院古文書影印集成」は研究者垂涎的。管理システムに先端技術の導入や、新刊書のパーゲンブック(特価本)など業界先駆けの取り組みでも知られる。年に2回、近代文学の魅力を深める特別講座を開催(参加無料)。目録は1月、10月の年2回発行。

03-3291-8221
千代田区神田神保町1-1



⑧ 山の上ホテル

都心の喧騒を抜けた静かな丘に立ち、三島由紀夫、井上靖、池波正太郎など数々の文人に親しまれた「山の上ホテル」。昭和12年(1937)の建造で、建物の登頂部分はジグザグファサードと呼ばれた、当時アメリカで流行した商業建築のデザイン。近隣に出版社が多いため、作家方の定宿としても知られる。全74室の小さなホテルだが、レストランやカフェ、バーは宿泊客以外も気軽に利用できる。特に、ロールケーキが全日本大会で1位に輝いた「ヒルトップ」や、六本木・日本橋に支店を出す「てんぷら山の上」は人気だ。

03-3293-2311
千代田区神田駿河台1-1



⑨ 田村書店

仏独文学を中心にヨーロッパの哲学・歴史・美術に関する書籍、洋書の稀覯書を扱う専門店。入口両脇には神社の千社札のように、全集の値札がこれでもかと言わんばかりに、数限りなく貼られている。扱う全集の数が多すぎて、実物はお店の人に頼んで出してもらわなければならないほど。1階には日本の近代文学や、西洋の古典を中心とした翻訳もの、哲学書やその研究書、2階には洋書が並ぶ。蒐集家には料理本(原書)、挿絵本、美麗装丁本が特に人気。店頭では日本一質が高いと言われる特価セールが行われ、いつも多くの人でにぎわっている。

03-3291-0563
千代田区神田神保町1-7



⑩ 大雲堂書店

古書全般を扱い、各ジャンルの良書を入手しやすい価格で販売している。武道書、漢詩や漢文、東洋医学などの専門書や学術書から、文学全集や宗教に関する本、囲碁や将棋など趣味の本など品揃えは多種多様。入口付近には様々な言語の辞典・事典類などが並び、英語・独語・仏語はもちろんルーマニア語や、『医学英語文例辞典』(朝倉書店、昭和58年)や『新約聖書ギリシア語辞典』(キリスト教新聞社、昭和53年)など専門的な辞典も揃う。老舗だが、間口が広く入りやすい雰囲気、地下鉄・神保町駅から近く、古書店めくりの起点ともなる。

03-3294-0616
千代田区神田神保町1-9



⑪ みわ書房

「みわ書房」は、「親子で来られる古本屋」がモットーの児童書専門店。子ども向け絵本と読み物、大人向け児童文学評論、絶版の古書を扱う。子供向けの読み物は、内外を問わず、古典から現代文学までカバーする充実ぶりが店の柱。これが書棚の半分以上を占める。『世界名作選』『日本児童文庫』シリーズなど、戦前に出版された貴重な名著も手頃な価格設定。装丁も美しく、美術関係者で買い求める人も多い。「今は浦島太郎もアニメになるけど、やっぱり日本の古典文学や民話は日本人らしい挿絵の絵本で読んでほしいですね」(店主)

03-3261-2348
千代田区神田神保町2-3 神田古書センター5F



⑫ ギャラリーかわまつ

あ、ゴミ袋……と思うが、実は「だまし絵」。「ギャラリーかわまつ」は、アーティストがビル外壁に油性スプレーで描いた不思議な壁画が目印。昭和50年(1975)開業、平成17年より神保町に移転。ピカソ、ミロなど巨匠をはじめとするヨーロッパの作家の版画、挿絵本から日本の現代作家によるシルクスクリーン、グラフィティアートまで19世紀以降の新旧交えた良質の作品を、版画を中心に取扱う。価格は1000円台～。版画はオリジナルでも一般に絵画より安価、手に入れやすいのが魅力だ。企画展を年4~5回開催。

03-3265-3030
千代田区神田神保町2-12-1

